

現在 イスラエルは国防において、ある種の自信を持っています。多勢に無勢であるにもかかわらず。それは、核兵器を保有しているからです。イスラエルは中東諸国の中で唯一 核を保有しています。もちろん、彼らは持っているとは言わないですよ。持っていないとも言わないんですね。白でもない。黒でもない。グレー。しかし、イスラエルが核兵器を持っていることは公然の秘密。

イスラエルが核兵器を所有したその瞬間に、核を持たない非アラブとアラブのイスラム圏に対して、安全保障上 決定的な切り札を持ったということなんですね。その瞬間、**安らかに**（安心して）**住んでいる**というこの聖書の言葉が成就したのです。

2) ロシアと行動を共にするイラン・トルコ、こういう国々が同盟を組んでイスラエルに攻め込んで来る。

38章 5-6節

5. ペルシア（イラン）とクシュとプテも彼らとともにいて、みな盾を持ち、かぶとを着けている。

6. ゴメルとそのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマ（アナトリア半島の現トルコ、アルメニアの一部）とそのすべての軍隊、それに多くの国々の民がおまえとともにいる。

“イランやトルコがロシアと一緒にイスラエルに攻め込んで来る” という預言ですが、実はトルコとイランは、現代中東歴史の中で長らく親イスラエルの国だったのです。

イランはイラン革命（1978-1979）が起こるまでは、ずっとイスラエルをバックアップする国でした。国内に油田を持っていないイスラエルが、アラブとの戦争で石油不足にならずに戦い抜くことが出来たのはなぜでしょう？ アラブの産油国以外でイスラエルをバックアップした産油国がいたからです。どこですか？ イランです。その代わりに、イランの秘密警察や治安部隊はイスラエルが訓練していました。持ちつ持たれつの関係。ですから、イランは長らく親イスラエルの国でした。

しかし、イラン革命でパーレビ国王が追放された後、イランは筋金入りのイスラム原理主義国家になりました。現在 中東諸国の中でイスラエル全滅を公言しているのはイランくらいなものです。現に、イスラエルに毎日のようにテロ工作活動をしているハマスやヒズボラのスポンサーはどこですか？ イランです。

トルコはどうでしょう？ トルコも長年にわたってイスラエルを支援する国でした。トルコはNATOのメンバーなんですね。アメリカの同盟国です。アメリカはイスラエルを支持する国。アメリカの同盟国は、出来るだけアメリカの国益に沿った行動を取るわけですね。

同時に、イスラエルは中東では珍しい民主国家です。トルコは民主国家イスラエルを率先して応援することを、主にヨーロッパを意識しながらアピールしていました。なぜなら、トルコの長年の悲願はEUのメンバーに加えてもらうことだったから。

もしEUメンバーに入ることが出来たら、トルコ人はヨーロッパにもっと自由に稼げに行けますよね。トルコは物価が安いので、多くの外貨を持つことが出来る。富を得ることが出来る。しかしEUは、なんだかんだと難癖を付けるというか理由を付けて、トルコを迎えないのです。EUメンバーに入るための条件を次々に国内で法整備するけど、やってもやっても出口が見えない。

そうこうしているうちに、このヨーロッパの対応やヨーロッパの文明そのものに大反発する人物が指導者に選ばれたんですね。それがエルドアン現大統領です。彼はイスラム主義の人で、ハマスを全面的に支持するのがエルドアンの立場です。現在トルコとイスラエルは、歴史上最悪の状態になってるんですね。

イランとトルコは、かつて中東の中で大きな覇権を持つ国でした。

イランの場合はアケメネス朝ペルシア、ササン朝ペルシア。トルコはオスマン帝国という時代があった。そんな帝国の時代、パレスチナはその帝国のものでした。つまり、現在イスラエルがあるパレスチナと呼ばれている地方は、かつて…イランでした。かつて…トルコでした。…ということなんです。彼らがパレスチナの土地を見る時、「かつて俺の国の一部だったんだけどな」という意識があるんですね。

このイランとトルコがロシアを中心に、中東の新しい秩序作りを話し合っているのをご存知でしょうか。これをビクトリー会議と言います。第二次世界大戦末期にヤルタ会談が行われましたね。

アメリカ・イギリス・ソ連が話し合っ、戦後の世界の線引き・秩序を3者で勝手に決めていきました。それと同じように、シリア内戦後の中東をロシア・イラン・トルコが話し合っているんですね。

この瞬間、エゼキエル戦争のための1ピースが成就したとも言えるんです。

イランとトルコはロシアと同盟軍/チームを組んで、やがて中東に乗り出すようになる、というのがエゼキエル書の内容だからです。

3) エゼキエル戦争の結末；連合軍はイスラエル領内に入るや否や、地震や同士討ちという超自然的トラブルで自滅する。

38章 18-19節、21-22節

18. ゴグがイスラエルの地を攻めるその日—神である主のことば—わたしの憤りは激しく燃え上がる。

19. わたしは、ねたみをもって、激しい怒りの火をもって告げる。その日には必ずイスラエルの地に大きな地震が起こる。

この地震で大半の軍隊が生き埋めになります。

21. わたしは剣を呼び寄せて、わたしのすべての山々でゴグを攻めさせる。—神である主のことば—。剣による同士討ちが起こる。

敵の攻撃で滅びるのではなく、味方同士で錯乱状態に陥って互いに殺し合う。

22. わたしは疫病と流血で彼に罰を下し、彼と、彼の部隊と、彼とともにいる多くの国々の民の上に豪雨、雹（ひょう）、火、硫黄を降らせる。

ここで列挙されている災害は、旧約聖書の中で神が悪を裁くために用いた手段なんです。

例えば、雹はモーセ時代のエジプトを打つために神が用いた手段。地震はサウル王時代、イスラエルの宿敵ペリシテ人を倒すための手段。火と硫黄はアブラハム時代、墮落した町ソドムとゴモラを滅ぼすための手段です。

ロシア連合軍はイスラエル領内に入った時全滅しますが、それはイスラエルの通常兵器や核兵器による壊滅ではなく、超自然的な神の介入で全滅すると言っんですね。

ところで、その時に世界に起こることについてこう書いてあります。

23. わたしは、わたしが大いなる者であること、わたしが聖であることを示し、多くの国々の見ている前でわたしを知らせる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。

わたしを知らせるというのは、ロシア連合軍が超自然的な壊滅をすることによって“確かに神がそれをなされた。神は本当におられるんだ”ということを知らせる、という意味です。

しかし、その前に重要な言葉が書いてありましたね。多くの国々の見ている前でわたしを知らせる。

イスラエルの領内でロシア連合軍が壊滅する様子を多くの国々が見る。その目の前で、イスラエル領内のこの戦争が行われる。

だけど、イスラエルから遠く離れた国々の国民は、どうやってこれを見ることが出来ますか？

現場にいないのに、イスラエルで起こっている戦争の実況を、どうやって知ることが出来るでしょう？
今なら出来ます。衛星中継やインターネットを通してです。今やスマホ 1 台あれば、世界の裏側の情報を動画で見ることが出来るし、今自分が見ている様子を世界の裏側に発信することも出来るんですよ。
しかし、エゼキエル書が書かれたのは今から 2600 年前なんですよ。人々はスマホのその字も知りません。

今スマホがある時代、特に 21 世紀になって 5G の時代に入りましたね。多いデータが瞬時に地球の隅々にまで移動できるようになります。5G が終わればすぐに 6G の時代が来ますよ。
いよいよ、世界が 1 つになることが技術的に可能な時代が来ている。私たちがデバイス…インターネットで世界の裏側の情報を、リアルタイムで見ることが出来る手段を持った瞬間、エゼキエル書のこの部分が成就しているのです。

更に、その様子を見たそのとき彼らは、わたしが主であることを知る。
この様子を見た人々の反応は良いものでした。それは、わたしが主であることを知る。
この様子を見た人々が「聖書の神こそが本物の神である。目には見えないけれど、本当に歴史を支配している創造主がおられる」ということを知るようになる。

ここの知るはヘブライ語でヤダー。体験として知るという意味です。
勉強や暗記で知るという意味ではありません。頭の知識ではなく体験として戦慄しながら、まさに聖書の神は生きておられる方だという認識で知る。

でも、なぜそんなに生々しい現実として知るんでしょう？
恐らく、エゼキエル書を前もって読んでいて、書いてある通りのことが目の前で起こるので、彼らは震え上がりながら知ることになると思うんですね。ここに聖書を学ぶことの意味があるのです。
聖書預言を知ることによって私たちは歴史を知ります。世界を知ります。時代を知ります。
そして、それを書かした神を知ることになるのです。

今日紹介したのは 患難時代の前に時系列で起こる 5 番目のしるしでした。
次回は 6 番目のしるし（前兆）についてご紹介しましょう。

もしよろしければ またこのチャンネルに合わせてください。
そして、もしよろしければ、チャンネル登録をお願いします。
ずいぶん寒くなって来ました。皆さん、どうぞご健康には気をつけてください。
また このチャンネルでお目にかかりましょう。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳 2017」です。